

# 地下鉄桜通線の延伸にともなう 緑区東部の『よりよい交通のあり方』に関する 居住者アンケート調査 概要版

## 1. 調査概要

### (1) アンケート調査の目的

緑区の東部地域では、平成 23 年 3 月 27 日の地下鉄桜通線野並―徳重間（約 4.2km）の開通により、周辺のバス網も再編され、公共交通をとりまく環境は大きく変化しました。

そこで、名古屋市ではモビリティ・マネジメントの一環として、駅周辺にお住まいの皆さまに対して交通環境の変化をお伝えするとともに、よりよい交通のあり方は何かを把握するために、「現在、どのような移動手段を使っているか」、そして地下鉄の開通を契機に、「どのように移動手段を変えていくのか」等についてお聞きするアンケート調査を実施しました。

### (2) 調査対象地域・対象者

アンケート調査の対象エリアとして、徳重駅より半径 3km 圏内に含まれる小学校区 11 学区を設定しました。

対象地域内に居住する全世帯を対象とし、各世帯について世帯票 1 枚、個人票 2 枚を配布しました。個人票の回答者については、各世帯より任意の 2 名とし、回答者を指定しない方式としました。



### (3) 調査方法・期間

アンケート調査は対象地区内の全世帯に対して、直接投函方式（ポスティング）により実施しました。また、調査実施期間は以下の通りです。

- 12月配布 平成 22 年 12 月 1 日（水）～12 月 16 日（木）※休祝日除く  
（回答期限 平成 22 年 12 月 25 日）
- 1月配布 平成 23 年 1 月 18 日（火）～1 月 27 日（木）※休祝日除く  
（回答期限 平成 23 年 2 月 13 日）

### (4) 調査票配布数・回収数

	配布数	回収数	回収率
世帯票	30,036 通	9,541 通	32.8%
個人票	60,072 通	15,274 通	25.4%

※個人票は1世帯あたり2通配布

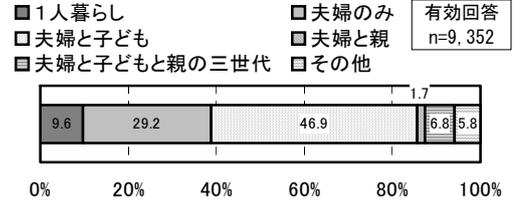
## 2. 調査結果の概要

ここでは、世帯票、個人票で得られた調査結果の一部を掲載します。

### (1) 世帯票

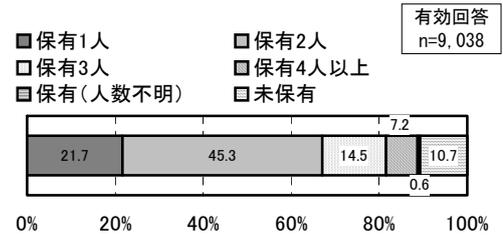
#### ① 家族構成

対象地域の居住者は、「夫婦と子ども」が約 47%と最も多く、次いで「夫婦のみ」が約 29%、1人暮らしが約 10%となっています。



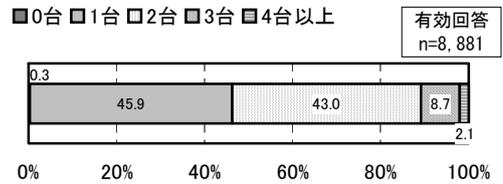
#### ② 世帯あたりの免許保有状況 ※本人含む

世帯あたりの免許証の保有者数は、本人を含めて「保有 2人」が約 45%、次いで保有 1人が約 22%となっています。一方、世帯の全員が「未保有」が約 11%となっています。



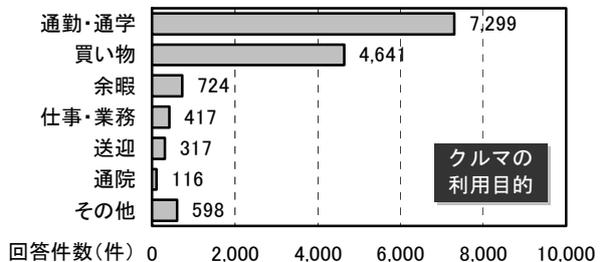
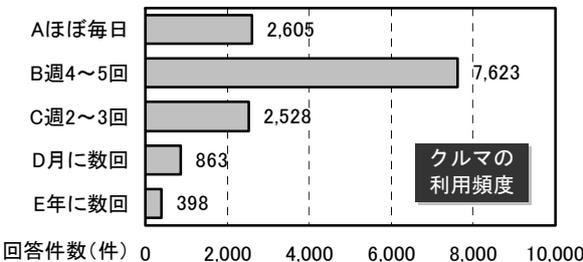
#### ③ 世帯あたりの自動車保有台数

ほぼ全ての世帯が自動車を保有しており、そのうち半数以上の世帯で2台以上の自動車を保有しています。



#### ④ 世帯で保有している各クルマの利用状況

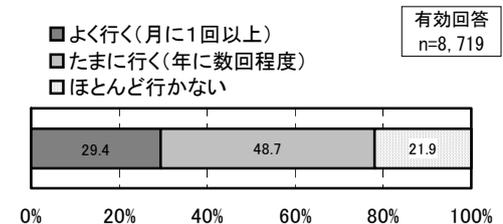
クルマの利用頻度では「週 4~5回」が最も多く、平日はほぼ毎日利用と推測されます。クルマの利用目的では、「通勤・通学」が最も多く、次いで「買い物」となっています。



#### ⑤ 家族での都心方面へのお出かけの頻度

家族単位での都心方面へのお出かけの頻度をみると、「よく行く」が約 29%、「たまに行く」が約 49%となっています。

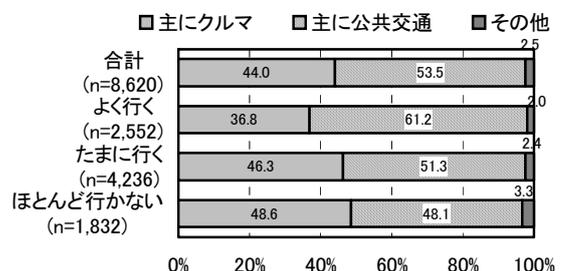
一方、約 22%の世帯が、家族単位では「ほとんど行かない」と回答しています。



#### ⑥ 家族での都心方面へのお出かけの交通手段

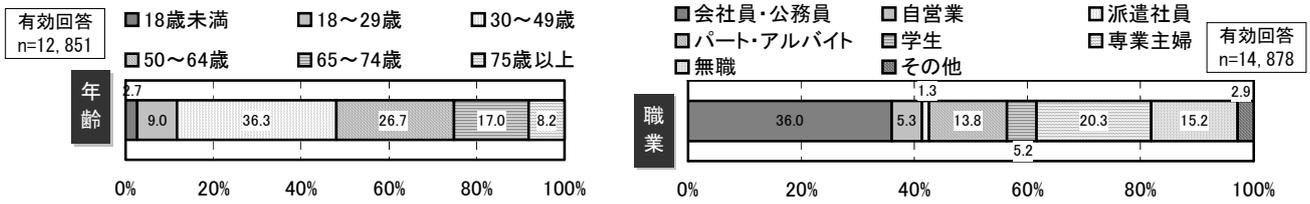
家族単位での都心方面へのお出かけの際の交通手段をみると、約 54%が「主に公共交通」となっています。

また、お出かけ頻度別でみると、頻度が高いほど公共交通の利用割合が高い傾向にあります。



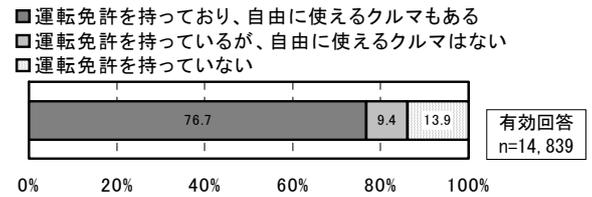
## (2) 個人票

### ① 年齢・職業

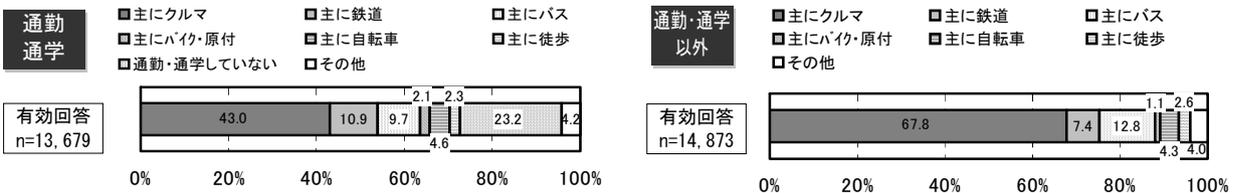


### ② 運転免許・自由に使えるクルマの有無

回答者の約77%が、「運転免許を持っており、自由に使えるクルマもある」と回答しています。一方、運転免許を持っていない人は約14%です。

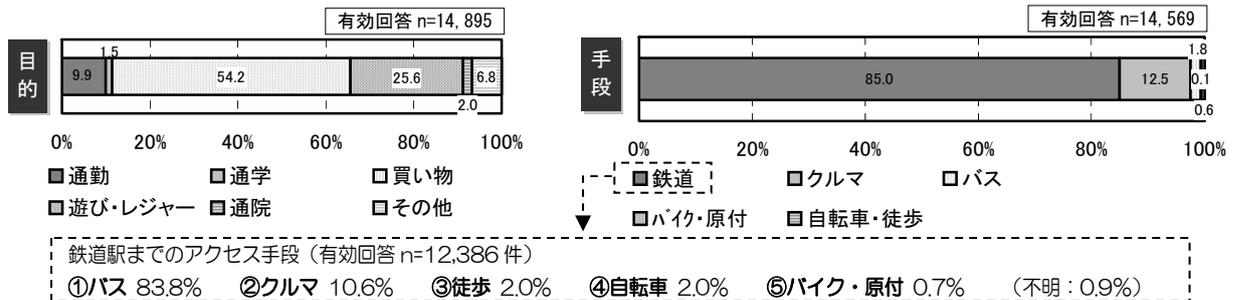


### ③ お出かけの際の交通手段



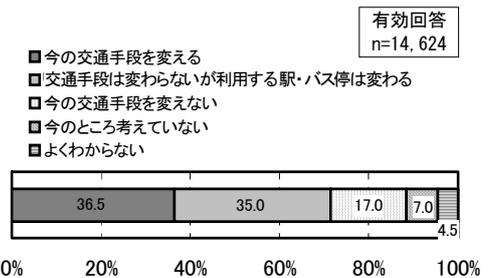
### ④ 都心方面へのお出かけの目的・交通手段

都心方面へのお出かけの目的は、「買い物」「遊び・レジャー」が多く、合わせて約80%です。一方、交通手段で見ると、代表交通手段では鉄道が約85%、クルマが約13%となり、また鉄道末端交通手段の内訳をみると、バスが約84%、クルマが約11%となっています。



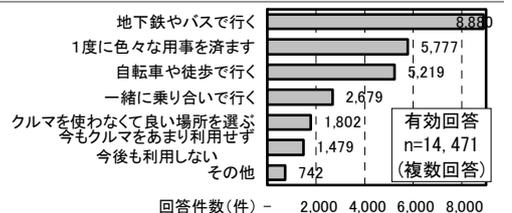
### ⑤ 地下鉄開通で今の交通手段を変えていく可能性

交通手段変更の可能性について、代表交通手段と鉄道末端交通手段を合わせてみると、「今の交通手段を変える」が約37%、「利用する駅・バス停を変える」が約35%となり、約7割の方が地下鉄延伸を契機に交通手段の変更を考えているようです。



### ⑥ クルマの利用を減らすためにできること

「地下鉄やバスで行く」が最多であり、次いで「1度に色々な用事を済ます」「自転車や徒歩で行く」ことが挙げられています。

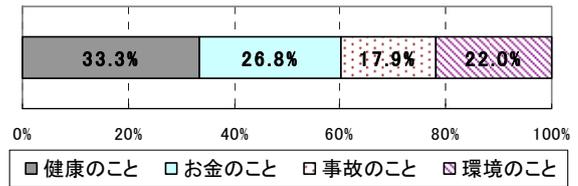


回答件数(件) - 2,000 4,000 6,000 8,000

## ⑦リーフレット（アンケート調査票に同封）で一番興味を持ったこと

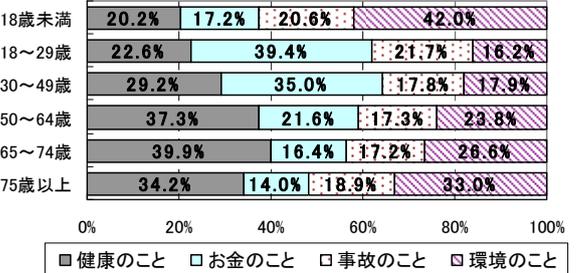
回答者全体でみると、「健康のこと」が約33%と最も多く、次いで「お金のこと」が約27%となっています。

有効回答  
n=13,762



次に、年齢階層別にみると、年齢層が高くなると、興味を持つ内容が「お金のこと」から「健康のこと」や「環境のこと」に移行する傾向があります。

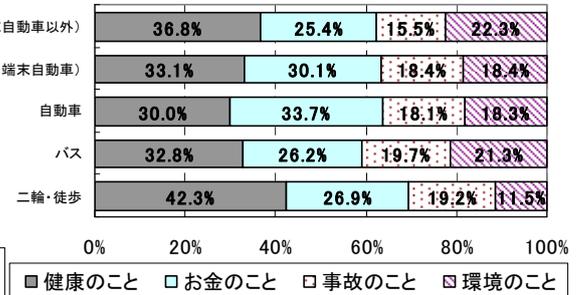
有効回答  
n=11,858



また、設問⑤において「今の交通手段を変える」と回答した人を都心方面への主な交通手段別にみると、「鉄道(端末自動車)」、「自動車」を利用する層では、「お金のこと」に対する興味が若干高い傾向にあります。

一方で、「二輪・徒歩」を利用する層では、「健康のこと」に対する興味が若干高い傾向にあります。

有効回答  
n=4,830



## ■リーフレット（裏面）

クルマと公共交通の違いを健康のこと、お金のことなどで見比べてクイズにしました。どれが正解か考えてみてください。

クルマでの移動が一番便利とは限りません。いつもは地下鉄やバス、自転車を使い、必要なときには、かしこくクルマを使う…「上手な交通手段の乗りこなし」を考えてみませんか？

**健康のこと？**  
片道15kmのクルマ通勤を、電車通勤に変えたとしたら、どのくらいの運動をしたことになるの？

①クルマ通勤の約2倍  
②電車通勤の約1.2倍

**お金のこと？**  
電車やバスを使った方がクルマを使うよりお得って聞いたけど、実際、クルマにいくらかかっているの？

①1日あたり約500円  
②1日あたり約1,800円

**事故のこと？**  
クルマは人身事故を起こすから危ないって言うけど、一生のうちで人身事故を起こす確率はどのくらいになるの？

①ドライバーの約4割  
②ドライバーの約2割

**環境のこと？**  
地球温暖化対策で、『まずは自分のできることから始めよう』って言うけれど、何から始めると効果が高いの？

①冷暖房を1℃調整  
②待機電力を90%減らす  
③1日10分クルマを控える  
④レジ袋を控える

**意外と良い運動になるんです**  
① 駅まで歩いて、電車に乗って…、それだけで 約2倍の運動量に!!  
座って楽に動ける「クルマ」では、カロリーがあまり消費されません。  
クルマに乗っていると、ずっと座っていられて、とても楽ですが、健康にはあまり良いことではありません。  
例えば時間クルマで移動する代わりに、地下鉄やバスを使うと、それだけでも消費カロリーが約2倍になります。

**結構気付かないお金がかかっています**  
② 頑張っても節約して乗っても、1日あたり約1,800円!!  
クルマはいつものガソリン代よりも、ふだん気付かない諸経費が大きいのです。  
クルマと公共交通での通勤を、お金の面で比べてみると、ついつい「ガソリン代」と「定期券代」で比べてしまいがちです。ただ、クルマは保険、税金など、いつもは気付かずにいお金がかかっている、実際には、1日あたり約1,800円かかるという試算があります。

**クルマを乗るたびに事故の危険を感じます**  
① 一生のうち、人身事故を起こすドライバーは、約4割という試算が!!  
クルマはいつでも事故の危険性がつきまといます。使うときは、安全運転で。「自分だけが、人身事故を起こさない」と、多くの人が思っているかもしれませんが、ただ、これから一生、例えば50年クルマに乗り続けると考えてみると、いつかは事故を起こしてしまうかもしれません。一生のうちで、人身事故を起こすドライバーの確率は、約4割との試算もあります。

**選べたら交通手段を見直しましょう**  
③ 例えば、クルマを少し控えることで、冷暖房などの工夫より大きな効果!!  
ムダにクルマを使わない。この一工夫が、環境対策には効果的です。  
一人ひとりができる「環境にやさしい」工夫は、色々なことがあります。1日10分クルマを控えることは、他の工夫よりも、CO2の抑制に効果的です。すぐそのコンビニに行くとき、ゴミを出しに行くときなど、ちょっとした移動には、ムダにクルマを使わない、その心がけが、地球にとって、良いことのように。

**クルマで移動した場合の消費カロリー**  
15km先の目的地の間を1時間で往復する場合  
1.7(kcal/分)×60(分)=102(kcal) +118(kcal)を消費!

**電車と徒歩で移動した場合の消費カロリー**  
「電車」で片道20分、1徒歩で「電車」22(kcal/分)×40(分)=88(kcal) +220(kcal) 駅まで駅から10分ずつの場合  
徒歩:33(kcal/分)×40(分)=132(kcal) (kcal)

**「クルマにかかる1日あたりの費用」の試算**  
例えば、車両価格65万円程度のファミリーカーを1年使用、毎月1万円のランニングコスト、駐車場代がそれぞれ1万円かかると想定します。この条件で保険料、車検代など必要な維持費を加えると、1日あたり約1,800円かかるという試算になります。

**「人身事故を起こす確率」の試算**  
年間の人身事故は、149年実績では約73万5千件発生し、全国の免許保有者数約8,000万人から割り戻すと、1年間のうちに1人0.91%が事故を起こす確率は約0.92%と試算されます。一生で50年間クルマを乗り続けることと仮定すると、人身事故を起こす確率は約37%となります。

**1年間で削減できるCO2の量**  
色んな工夫を1年間行った場合に、CO2がどれくらい減るか示したグラフ。  
① 冷暖房を調整する  
② 待機電力を減らす  
③ 100%再生可能エネルギーを使う  
④ レジ袋を控える